

編集・発行 金目川水系流域ネットワーク世話人会

発行日 2007年7月10日

## 夏休み 金目川の生き物観察会のご案内

**日時** 平成19年8月2日(木) 午前の部 午前9時~11時  
 (雨天中止) 午後の部 午後1時30分~3時30分

**集合場所** 平塚市立金目小学校

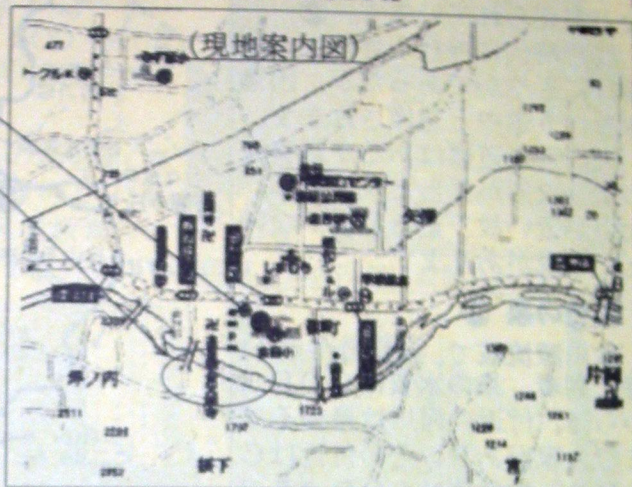
**実施場所** 金目川観音橋付近

**内容** 川の中にすむ生き物調べ  
 ミニ水族館づくり

**募集人員** 80名(午前、午後それぞれ40名)  
 (対象) 平塚市立金目小学校  
 みずほ小学校の生徒

**指導者** 東海大学 藤吉先生、北野先生  
 など 大学生  
 協力 地元の人たち

**主催** 金目川水系流域ネットワーク  
 NPO東海大学地域環境ネットワーク  
 平塚市



(担当) 柳川 三郎 (Tel 0463-59-2000)

## 金目川流域の夏季水温調査への参加のお願い

**日時** 平成19年8月16日(木)  
 午後1時から3時まで

**調査地点** 金目川流域の橋  
 希望の橋(測定点)がありましたら、下記担当までお申し出てください。  
 (44の橋 右図参照)

**調査内容** ○バケツにロープを縛り、河川の水流通中心部をくみ上げて水温を測定  
 ○測定にあわせ、橋上から上下流方向の写真撮影をしてください。  
 (ヨシの生態など、測定点付近の河川状況の調査)

(担当) 柳川 三郎  
 (Tel 0463-59-2000)

(調査カ所の概要)



(この図は、昨年の測定データを示した。)

(今回のコース案内)

## 1 金目川上流の室川水源地域探索

### 出羽三山信仰と古道

小田急線渋沢駅の近くに矢倉沢往還や大山道の200年前の碑①が、現在の車社会と数少ない歩行者を見守っています。

秦野市千村は出羽三山信仰(山形の羽黒山、湯殿山、月山)ふじ信仰・作物の神、堅牢地神などが祀られています。②

江戸時代に神社・寺院への参詣はにぎやかであったが、困難さを伴う道中と想像されます。

大山道の道標はあるが供養塔のような形が見当たりません。大山が近い故、造る習慣がないという説があります。

### 若竹の泉 ③

室川源流域で、泉には午前11時に到着。泉の水質はCOD 2から5、付近の河川は泉のそばまで人家があり、その付近はCOD 7、竹林側はCOD 2.5で水量は豊かです。

### 小さなかりがね松(雁音神社) ④

かりがね姫の悲話。村人の姫に対する優しさと哀悼がしのばれますが、わらじから足元はスニーカー等になり、マイカーで短時間に目的地へいける便利になった半面、自然界の破壊や地球温暖化へ加速を招いてしまった私たち、ストップ温暖化が正念場です。

15年前最初に訪れた千村はのどかな山郷のなつかしさと路傍の道祖神と共に置かれた対の石のヒョットコとオカメは黒くすすけた顔で、どんど焼き(道祖神祭)に深い関係がありましたが今回は見当たりません。

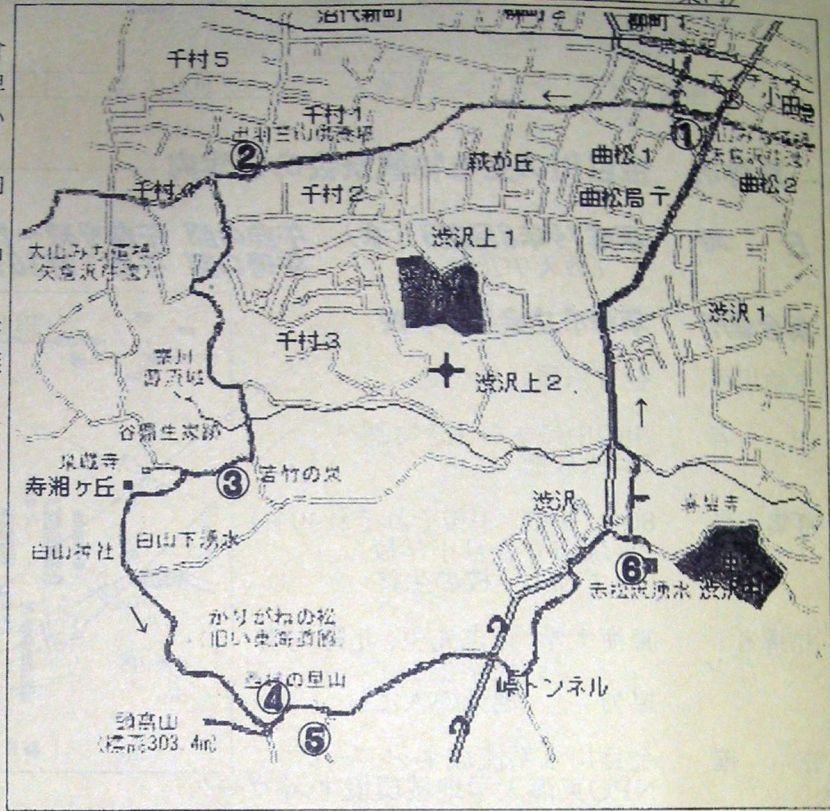
### 西端の里山整備 ⑤

広い西端の山は4年間に亘ってボランティアの絶え間ない努力が実っています。暖かい太陽の木漏れ日はヤマユリ等と、もともとの植生が一面に謳歌している様は森は生きている具現です。(写真1)

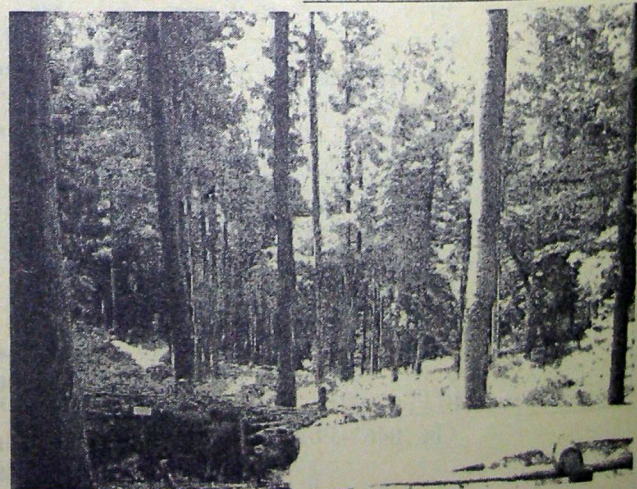
代表の椎野氏からの貴重な苦労話は身にしました。次の世代につなげたい原風景です。

### 赤松沢湧水 ⑥

室川源流域の湧水に到着したのは午後2時。泉の測定ではCOD 7から8と厳しいデータとなっています。場所は渋沢中学のそばで、新しい人家が建っている地域です。



(写真1 西端の里山風景)



(本文中の○印番号は、それぞれコース案内図に記載した場所をあらわしており、いずれも編者が記入したものです。)

## 2 学部水源域探索ハイキング

中田啓介  
(東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程北野ゼミ)

### 目的

大山道にできるだけ沿った道を歩き、室川の水源をはじめとする道中の様々な場所に寄りながら、道と自然を巡る。

### 内容

渋沢駅を出発した私達は、その道中で多数の石碑を目にした。(写真2)。

これらの石碑は、大山道分岐点の目印などの目的で設置されていた。比較的新しい石碑と昔の石碑が混在していた。①

途中の若竹の泉(写真3)にてパックテストによりCODを計測した。(写真4)原因は不明であるが、COD平均値は約3.8であり、水質は良くなかった。③

西端の里山で、林の管理をされている椎野さんの話を聞く事ができた。椎野さんはこの道6年の熟練者で、毎日のように林の手入れをされている。また、地元の小学校の環境教育の一環で、小学生が育てたクヌギ・コナラ・ミズナラなどを植林されている。(前頁の写真1)⑤

私達は、椎野さんからこの地域の歴史や環境、椎野さんが普段されている林での仕事について教わる事ができた。

里山を降り、峠のトンネルを越えて、室川の湧水の1つである赤松沢湧水を観察した。(写真5)⑥

自然の中に存在してはいたもののコンクリート張りがされており、自分の想像していたものとは異なっていた。

### 感想

生物系のゼミに所属している私にとって、今回の活動はいつもとは違い生物に触れる機会がほとんどないものだったため、初めは面白いのだろうかと不安だった。しかし、歩いていくに連れて山の景色の素晴らしさを目の当たりにし、またこれまであまり調べたことのない水質調査ができ、普段とは違った楽しさがあった。

自分にとって、特に印象的だったのは西端の里山だった。椎野さんの話を聞き、実際に手入れのされた林を見た時には深い感動を覚えると共に、自分も将来は自然に携わる仕事に就きたいと思った。

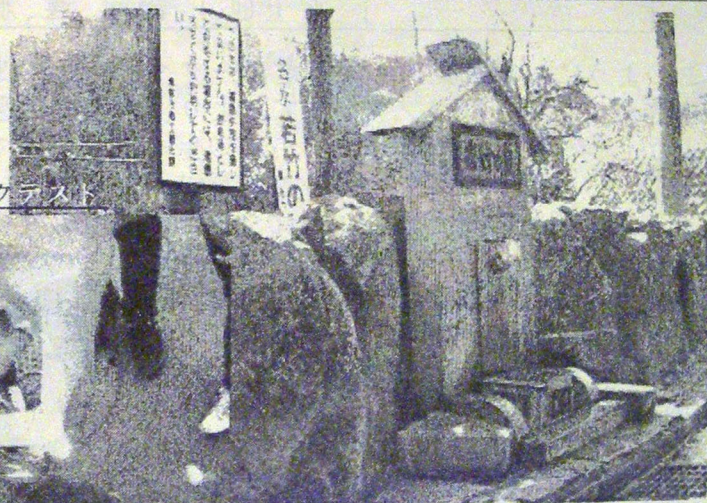
また、このような活動があるのなら是非また参加したいと強く感じた。

(北野ゼミからの参加者)

濱田康正、平沢朋之、戸塚文範、鈴木雄介、高村真紀子、岩田めぐみ、中田啓介、北野先生の8名



(写真2 大山みちに設置されていた碑)



(写真3 若竹の泉)



(写真4 パックテスト)



(写真5 赤松沢湧水での測定)

**「第31回 環境・公害研究合同発表会」報告要旨**  
 (主催 神奈川県市環境・公害研究機関協議会)

**テーマ 地域の環境保全に向けた市民と行政の協働の取組について**  
**—ネットワークとの金目川協働調査—**

神奈川県環境科学センター 大塚知泰

環境科学センターでは、金目川で市民の方がおこなう環境保全の活動を支援するため、2004年から2006年までの3年間、河川情報データベースの作成とその活用法についての検討を行いました。

川で環境保全に取り組む際に、どこに、どんな生物がいるのか、公の機関が定期的に測っている川の水質がどのようなものであるかといった情報源は、学術雑誌や、図書館の行政資料コーナーなど、あちこちに散らばっています。

河川に関する環境情報を一度に集めて提供することができれば、手軽に参照し、環境保全活動に取り組めることができると考えたからです。

3年間の検討において、データベースの作成に収集した情報は下表のようなものになります。

表 金目川GISデータベースに収録した情報

区 分		格納したデータ
基盤情報		行政界、流域界、河川、土地利用等
自然環境情報	生物	水生動物分布、潜在植生等
	水土他	治水、堰、水質調査地点等

このようにして収集・作成したデータベースは、CD-ROMの形で提供することができ、無料で配布されている閲覧ソフトウェアにより、内容を地図の形で参照することができます。

しかし、これだけでは金目川が川の生き物にとって本当に棲みやすい川であるのか、ということについて十分な答えを得ることができません。

そこで、川魚の女王ともいわれ、しかも環境の変化に敏感な鮎について最近の生息はどのようなになっているかということと、生息条件の一つとして重要な水温について流域ネットワークの活動として協働調査を実施しました。

夏の暑い時期に行った調査では、鮎の生育に適当でない28℃以上という高温域があることがわかりました。

釣り人への聞き取りや投網を打つなどして、春から冬のはじめまで継続的に実施した調査では、アユの遡上や流下、産卵地点など、金目川での鮎の生活を把握することができました。

このような調査結果は、ネットワークの活動成果として、今後の活動の参考となるほか、金目川の情報をさらに多くの人たちに伝える河川情報のデータベースとなりました。

加えて、保全活動の成果がつぎの活動への参考となるような協働の仕組みのひな形として活用できると考えています。



(会員による河川調査の状況)

**〇ご意見、ご感想、地域情報、入会希望などがございましたら下記までお寄せ下さい。**

事務局 〒259-1292 平塚市北金目 1117

東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程

佐々木園子

事務局あてのご連絡は Fax 0463(50)2208 (自然環境課程) にお願ひします。

(上記の部屋で、毎月第2土曜日の午後1時より例会を開催しています。是非ご参加下さい。)